

課題名 東北大学大学院教育学研究科における SDGs 推進取り組みに関する事例研究

研究代表者名 劉 靖 (グローバル共生教育論)
研究組織等 郭 佳 佳 (グローバル共生教育論)
李 詩 景 (グローバル共生教育論)
温 寧 兮 (グローバル共生教育論)
王 思 寰 (グローバル共生教育論)

研究の背景と方法

本研究は、大学における SDGs 推進に関わる取組みに着目し、東北大学大学院教育学研究科（以下、本研究科とする）で取り組んでいる 2 つの事業の事例研究を通して、これらの事業と SDGs の関連性を解釈し、事業の現状ならびに課題を明らかにすることを目的とする。

近年、グローバル社会において、大学における持続可能な開発目標に関する役割が注目されている。また、2019 年から Times Higher Education 世界大学ランキングには大学の社会インパクトに関するランキングも設立され、大学の社会貢献の取組みを SDGs の枠組みで可視化され始まった。また、東北大学における第 3 期中期目標期間評価には社会連携・貢献・地域創生に関する取組みについてさらに補強する必要があると指摘された。このような背景を踏まえ、本研究科では社会インパクトがある教育・研究内容を充実するため、これまで本研究科における持続可能な開発目標に関する取組みの歴史と現状を総合的に整理した。その中、特に、2015 年度以降継続的に実施されている SDGs 推進に関わる事業から、知的障害者の生涯学習の支援活動である「杜のまなびや」と海外の大学と連携し開催している「Asia Education Leader (AEL) Course」という 2 つの事例を選出した。以上の事例分析を通して、それぞれの事業と SDGs の関連性、事業の現状、直面している課題および対策も検討する必要がある。本研究を通して、本研究科における持続可能な開発目標のための教育・研究・地域社会連携の新たなあり方を提案することも目指す。

本研究の分析に用いるデータは、本研究科における SDGs 推進に関わる取組みに関する資料や報告書の文献レビューおよび関係者によるインタビューである。具体的には、2000 年以降に本研究科先端教育研究実践センターに発行された『先端教育研究実践センター年報』や各相談室、支援室の報告書を整理し、本研究科における SDGs の推進取り組み歴史と現状をまとめた。次に、聞き取り調査を行い、研究科における SDGs の推進取り組みに関わる教員・学生および関係者にインタビューを実施した。

研究経過

2021年7月-11月：準備段階

2000年以降に本研究科先端教育研究実践センターに発行された『先端教育研究実践センター年報』（2000年-2021年）や各相談室、支援室の報告書を整理し、本研究科におけるSDGsの推進取り組みをまとめた。纏めた結果に基づき、関係者名簿を整理し、聞き取り調査の質問票などを作成した。また、インタビュー調査の内容を研究倫理審査委員会に提出し、審査を受け、調査の実施が承認された（承認ID：21-1-063）。

2021年11月-1月：展開段階

知的障害者の生涯学習の支援活動である「杜のまなびや」と海外の大学と連携して開催している「Asia Education Leader Course (AELC)」という2つの事業に焦点を当たり、二つの事業に関わる教員および関係者にインタビュー（ZOOM利用）を行った（表1を参照）。調査で集めた資料やデータを分析した。

表1：ヒアリング対象リスト

Asia Education Leader (AEL) Course			
	大 学	職 名	実施日
1	高麗大学	講師・プログラムコーディネーター	2022年1月5日
2	南京師範大学	准教授・プログラムコーディネーター	2022年1月5日
3	台湾政治大学	教授・プログラムコーディネーター	2022年1月11日
杜のまなびや			
	所 属	職 名	実施日
1	東北大学	教授・事業代表	2022年1月20日
2	東北大学	大学院生・スタッフ	2022年1月20日

2022年2月：発信段階

研究結果をまとめた報告書を執筆し、『先端教育研究実践センター年報』に投稿した。また、本研究科紀要や学会誌などに和文・英文の論文投稿の準備を行った。

研究成果

『先端教育研究実践センター年報』（2000年-2021年）の報告資料を整理した結果によると、2000年以降、本研究科において、すでに2015年国連で採択された持続可能な開発目標の本質である「誰一人として取り残さない（leave no one behind）」という考えが反映された多様な研究・地域貢献の取り組みが実施された。特に、2015年以降、「すべての人々

への包摂的かつ公正な質の高い教育」の実現のために、研究科では、「公正かつ差別のない教育」、「質の高い教材および授業による教育」、「多様性に対応できる教育」および「国際化を推進する教育」という四つの側面から、教育・研究・地域貢献の取り組みが展開されている（図 1 を参照）。本稿では、知的障害者の生涯学習の支援活動である「杜のまなびや」と研究科の国際化に支えている「Asia Education Leader Course (AELC)」という 2 つの事例について、それぞれの事業と SDGs の関連性、事業の現状、直面している課題および対策もまとめた上で、本研究科における持続可能な開発目標のための教育・研究・地域社会連携の新たなあり方を提案した。

図 1：研究科における SDGs 推進取り組み



今後の展望

本研究の結果に基づき、今後、本研究科にける SDGs 推進取り組みのさらなる展開について、様々な期間と関係者との協働によるパートナーシップの構築が必要となる。また、これらの取り組みの推進と展開のために、本研究のように、継続的に研究科内の SDGs 推進取り組みに関する研究を推進し、これらの取り組みを可視化すると同時に、学内外に積極的に発信することを提案したい。

謝辞

- (1) 調査にご協力いただいた Asia Education Leader Course (AELC) 加盟大学の関係者の皆様と「杜のまなびや」の関係者の皆様に感謝申し上げます。

- (2) 本稿は「東北大学大学院教育学研究科先端教育研究実践センター2021年度プロジェクト研究助成」を受け実施した研究成果の一部である。研究を支援していただいた東北大学大学院教育学研究科先端教育研究実践センターに感謝申し上げます。